

【人文科学研究科】

| 年度 | タイトル | 備考 |
|--------|---|----|
| 2003年度 | 欧羅巴の昔話における母性：KHMとその類話を中心に | |
| 2003年度 | ロベルト・シューマンの芸術観 | |
| 2003年度 | Normgedanken bei den Grammatikern im 17.-18. Jahrhundert in Bezug auf die Rechtschreibung | |
| 2003年度 | テレビニュースにおける女性被害者報道 | |
| 2004年度 | 安楽死をめぐる生命倫理学上の諸問題 | |
| 2005年度 | フェリックス・ブラックモンと陶磁器のジャポニスム | |
| 2005年度 | 横光利一『旅愁』研究 | |
| 2005年度 | お雇い外国人キヨツソーネが描いた神功皇后と国家理想風景 | |
| 2005年度 | ポール・ヴェルレーヌの初期詩篇における心象風景 | |
| 2005年度 | 戦死者の記憶：沖縄の戦死者にまつわる幽霊話から | |
| 2005年度 | 変動する日本の就業構造：新たな格差社会の到来の危機 | |
| 2006年度 | 十返舎一九黄表紙の研究：その教訓性と多様性について | |
| 2006年度 | 障害者スポーツとノーマライゼーション | |
| 2006年度 | Hip Hopクラブ・カルチャーにみる集団の規範とジェンダー | |
| 2006年度 | マオリがマオリであるために：「マオリの目」を通しての教育 | |
| 2007年度 | ワイマール共和国成立期の軍隊と政治：カッパ＝リュトヴィッツ＝揆を中心に | |
| 2007年度 | 「散らかり」の美術史 ：モノをとりまく欲望、近世のオランダと日本の静物表現の比較から考える | |
| 2007年度 | 文禄期の伏見城造営と関白秀次の立場 ：普請・作事・材木調達をめぐって | |
| 2007年度 | 累の研究：近世における累物の受容と累像の変遷 | |
| 2007年度 | 芥川龍之介研究：「戯作三昧」「地獄変」における芸術至上主義 | |
| 2007年度 | 三島由紀夫『愛の渴き』研究：悦子像を中心に | |
| 2007年度 | 情報化社会における海賊版と規制 ：中国の海賊版ソフト問題についての考察 | |
| 2008年度 | 身体の“型取り”：近現代美術を中心に | |
| 2008年度 | 告白される分身：ホフマン『悪魔の霊液』論 | |
| 2008年度 | ショーペンハウアーとライブニッツ：悪の問題をめぐって | |
| 2008年度 | 中学校英語教科書に出現する語彙の特徴：初級学習者の語彙指導を考える | |
| 2008年度 | 中世後期京都における諏訪氏と諏訪信仰：『諏訪大明神絵詞』をめぐって | |
| 2008年度 | 三島由紀夫文学作品中の老女 | |
| 2008年度 | 小袖模様雛形本と浮世絵 ：「雛形若菜初模様」からみる江戸モードについての一考察 | |
| 2008年度 | 知識のメディア史的考察：インターネットと知識の“断片化” | |
| 2008年度 | 中学校英語教科書に現れる前置詞の考察 | |
| 2008年度 | 単身男性「ホームレス」の生活世界 ：男らしさからの解放と「関係的自立」に向けて | |

| 年度 | タイトル | 備考 |
|--------|---|----|
| 2009年度 | 屏風における「記憶の形象」：東博本「浜松図屏風」をよむ | |
| 2009年度 | 黄表紙の豆男 | |
| 2009年度 | 火伏せ信仰：福島県郡山市湖南町の古峰ヶ原講を事例として | |
| 2009年度 | 会津藩で創出された猪苗代兼載像 | |
| 2009年度 | 日本のメディアにおける謝罪会見の分析 | |
| 2009年度 | 中高年女性の再就学と「女性の自立」の再検討 ：50歳代女性を中心とした大学院生への聞き取り調査から | |
| 2010年度 | 古代歌謡が語る歴史：歌謡から万葉集へ | |
| 2010年度 | 茶文化に占める泡の位置：中国茶書と茶詩の表現を中心に | |
| 2010年度 | アイヌ民族の食文化の展開：ジャガイモの保存食から見る和人との関係 | |
| 2010年度 | 内田百閒『東京日記』研究 | |
| 2010年度 | “Multi-Roots”の人々のメディア表象とイメージ形成に関する考察 ：雑誌内容分析とインタビュー調査から | |
| 2010年度 | 若年失業と非正規雇用の規定要因とその変化 | |
| 2011年度 | 近世ヨーロッパの海賊：船乗りの共同体的規範と人種構成をめぐって | |
| 2011年度 | 「性同一性障害」者のアイデンティティ | |
| 2012年度 | A Study of Japanese Returnees Coming from English Speaking Environments | |
| 2012年度 | ワーグナーのロマン主義オペラにおける異界 ：《妖精》と《ローエングリン》を中心として | |
| 2012年度 | エミール・ギメの日本コレクション | |
| 2012年度 | ハンス・ベルメールと人形：多重化する空間 | |
| 2012年度 | セリーヌと政治 | |
| 2012年度 | 小袖雛形本と絵本にみる図像転用についての一考察 ：消費される意匠の背景 | |
| 2012年度 | 心中物とパロディ：黄表紙を中心に | |
| 2012年度 | 農村における近代家族の形成：農村家庭雑誌『家の光』を事例として | |
| 2012年度 | 日本の子ども向けテレビ番組におけるCMの内容分析 ：ホストセリング、プロダクト・プレイスメントの観点から | |
| 2013年度 | フランス語テキスト時制分布と物語構成 ：セギュール夫人“Les Malheurs de Sophie”の分析 | |
| 2013年度 | ジャン・ジャック・ヴァルトにおけるアイデンティティの葛藤 ：挿絵画家Hansiから見た『アルザスの歴史』 | |
| 2013年度 | 場を飾る衣服：衣桁飾り・誰が袖図屏風 | |
| 2013年度 | 江戸時代の手品本研究：草双紙との比較、その娯楽性について | |
| 2013年度 | 替えもの神事研究における鸞替神事の一事例 | |
| 2014年度 | 夢の語り分析：フランス語テキストにおける夢の表現とその意味 | |
| 2014年度 | 信州雨宮御神事：城下町松代天王祭との比較 | |
| 2014年度 | 『こゝろ』の空間：「東京」と「故郷」について | |
| 2014年度 | 草双紙「桃太郎」物の研究：黄表紙を中心として | |
| 2014年度 | 「僕ら」の女の子写真から、わたしたちのガリーフォトへ ：1990年代におけるフェミニズム・フォトグラフィーの系譜 | |
| 2014年度 | ゆれ動く経験：3.11被災地で市民メディア活動をした学生を例に | |

| 年度 | タイトル | 備考 |
|--------|---|----|
| 2016年度 | マーク・トウェイン『ハックルベリー・フィンの冒険』論 ：南部の「父」へのアンビバレンス | |
| 2016年度 | 「動物のロマン」にみる「カストール文庫」の革新性 —フランス現代絵本の夜明け | |
| 2016年度 | 18世紀ヴェネツィアにおける「仮面」の文化—自由か強制か— | |
| 2016年度 | 学校における性的マイノリティの子どもの経験—教師との関わりを中心に— | |
| 2016年度 | 大正期の谷崎作品がつける「仮面」とその「主眼」 | |
| 2017年度 | 「脱領土化」をめぐるポピュラー音楽 —1990年代-2000年代を中心に・日本のクラブカルチャーを通して | |
| 2017年度 | 変遷するロボット表象 ：科学に影響される人間とロボットの関係性 | |
| 2017年度 | カラヤンの音楽性の特徴をめぐって | |
| 2017年度 | ゲーテと18世紀末のイタリア ～当時のインフラから『イタリア紀行』を読む～ | |
| 2017年度 | 岡本綺堂論 —短編怪談を中心に— | |
| 2017年度 | 古今集和歌における類型的表現の年代性 —「つつ止め」の構造に関する | |
| 2017年度 | 日本の学校における国際児の子どもたちへの対応をめぐる現状と課題 | |
| 2017年度 | 若年層の親との援助関係における階層間格差 | |
| 2018年度 | 谷崎潤一郎『颯風』論 | |
| 2018年度 | 宗族村に暮らす女たち —女性の視点からみた福建省宗族組織の実際— | |
| 2018年度 | 「Xジェンダー」から問い直す 性別の二元制と「心の性」/「体の性」言説 —「Xジェンダー」当事者へのインタビュー調査から— | |
| 2018年度 | パチンコ業界におけるコンテンツ消費について | |
| 2018年度 | 放課後児童クラブの子どもの声を聴く —子どもアドボカシーの観点から— | |
| 2019年度 | 「しんどい親」の介護をめぐる物語 | |
| 2019年度 | 日本中世武家社会の所領支配をめぐる展開 —鎌倉期を中心に— | |
| 2019年度 | 泉鏡花作品における恋愛と感応する靈魂 | |
| 2019年度 | 赤城山日光山神戦伝説の形成過程に現れるムカデ退治譚の研究 | |
| 2019年度 | アニメファンを「聖地」に誘う要因に関する研究 —メディアとの接触に着目して— | |